日米交流活動 ➤ ➤ ➤ ➤ ➤ ➤ 8月

青森県 北米 経済交流ミッション

青森県側16名がワシントン州を訪れる
シアトル港↔八戸港の貿易を促進

青森県北米経済交流ミッションが８月に行われ青森県の行政と建築関係者、合わせて１６名がアメリカにおける住宅建築の実情を学び、八戸港との貿易推進を図る目的でシアトルを訪れた。このミッションは青森県が主催し、業界関係者、ジェトロ、青森県庁、青森県住宅供給公社と八戸港貿易センターの代表者によって構成されていた。

初日はワシントン州通商経済開発局によるプレゼンテーションと商談会が行われた。この日の午前中はコーリン・ジョンソン（住宅産業促進担当）による外壁や窓の防湿防水対策及びアメリカにおける検査システムについてのマルチメディアを使ったセミナーがあり、引き続きアームストロング・ビルディング・コンポーネンツ社の輸出営業部長酒井 利英氏によって会社概要が説明された。その後、通気胴縁工法における輸入窓の取付け方や、住宅現場で使用される検査項目リストの内容について話題が移り、一通りの説明が終わると、会場からは、積雪に耐える屋根の効率的なデザインの仕方など具体的な質問が出された。午後にはワシントン州の企業が４社参加し、輸入建材に関する質問や建材の選定・発注及び特定のプロジェクトに関するアドバイスを行った。

翌日はシアトル近郊の大きな住宅建設現場と現地の会社を２社訪問。まずモンロー市にあるキャニオン・クリーク・キャビネット・カンパニーの新しい工場とショールームを見学した。３００人以上の従業員を抱えるこの会社は、伝統的なスタイルからヨーロッパ調のものまで製造し、日本市場向けにも特注のキャビネットを生産している。

その後、地元のホームビルダーやＤＩＹをする方のための建材センター「ランバーマンズ」を訪れた。特にＤＩＹコンセプトの建材の積みと支払いについては、多数の人が興味を示していた。パシフィック・ハウジング・マテリアルズ＆デザインの菅野氏も参加し、さまざまな建材についての説明がなされた。

最後にシアトルの東にある「リバートレール」というタウンハウスとコンドミニアムを含む共同住宅が建築中の大きな住宅建設現場を視察した。一行はクラキット・コンストラクション社の経験豊富なフレーマーであるブライアン・ダラス氏によってフレーミング、断熱、ドライウォール、完成されたモデルホームと様々な段階の建築現場と３階建てのコンドミニアムを見学した。

JELD-WEN®

ジェルド・ウェン 日本事務所を開設

今年６月、ジェルド・ウェン社が初の日本事務所を開設した。ジェルド・ウェン社はオレゴン州の小さな製木工場として1960年に創立。現在ではジェルド・ウェン・グループ企業の製造工場はアメリカ全土、ヨーロッパとアジア合わせて100拠点以上に及んでいる。ジェルド・ウェンという社名になじみのない人でも、ノードドア、サミットウィンドウ、エリートドアやポッジ ウィンドウなどはご存じの人も多いはず。これらは全てジェルド・ウェンの傘下企業である。

直接的なサービスを提供

ジェルド・ウェン日本事務所の所長であるジム・カットー氏は、日本事務所を開設したことで、顧客に対し直接的なサービスを提供できる、と意気揚々だ。スタッフを駐在させることで技術的なサポートサービスを提供でき、建築現場にテクニカル・サポート・スタッフを派遣することも容易だ。仮に商品トラブルがあった場合でも直接対応できる。

開設した日本事務所内で
ジム・カットー氏（右）とティム・ローリー氏

日本の消費者の声を製作者に『伝達』

窓及びドアのフィールド・サービス・マネージャーであるティム・ロール氏は、日本事務所のもう一つの役割は『伝達』にあると説明する。日本市場向けの特別商品を製作する場合、日本の気象状況や工務店・消費者の趣向を考慮しなければならないため、その生の声を商品の製作者側に確実に伝えることは極めて重要な過程となるが、日本事務所はその責務を担っているというわけだ。　ジェルド・ウェン社は今後日本での活動をさらに活発化させる方針で、住宅展示会に出展したり、ジェルド・ウェン社の特定製品を使用する工務店向けに技術セミナーを開催する予定である。現在、取付け説明書、技術面や市場情報のパンフレットを日本語で作成中である。

カットー氏は語る。「私たちの最大の使命は、日本の建材メーカーが顧客に対して提供するサポートと同等のものを、我が社からも提供できるように基盤を作り上げることです。更に最も重要なことは、お客様が私たちを必要としているときに、それにすぐ応えられる体制を築き上げることです。」

ジェルド・ウェン日本事務所：TEL 043-297-3195　FAX 043-297-3196